

大崎上島町「ゼロカーボンシティ」宣言

近年、異常気象による猛暑や豪雨災害等が、世界各地で発生しておりますが、この要因は、地球温暖化が原因とされ、極めて深刻な問題となっております。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命期からの平均気温の上昇幅を1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に共有され、世界各国が、その対策に向けて動き始めています。

この目標の実現には、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることが必要とされており、政府としても「2050年、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」という宣言を行っております。今後、脱炭素の取組みが、加速していくものと思われま

す。本町は、大崎上島町第2次長期総合計画に基づき、町内で実施されている従来型の火力発電を脱却する酸素吹石炭ガス化複合発電実証試験事業などのクリーンエネルギーの開発・推進に向け、関係機関と連携しこの取組を支援してまいりました。

今後、二酸化炭素を資源と捉えて活用するカーボンリサイクル技術の実証試験が本町を拠点として、開始されることも決定しており、先般、「カーボンリサイクル国際会議 2020」においても、この取組みを含め、本町が世界に紹介され、この成果を世界が注目しています。

大崎上島町は、瀬戸内海のほぼ中央に位置している温暖少雨の自然豊かな離島の自治体です。この環境を、後世に引き継ぐためにも、この取組みと併せて、国、県と連携しながら、カーボンリサイクル事業や町内における環境教育などを通じて、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」に町民・事業者等が一体となって、挑戦することをここに宣言致します。

令和3年3月25日

大崎上島町長 高田 幸典